令和８年度「全国学力・学習状況調査」
～鳴門市の結果の概要と今後の対応～

鳴門市教育委員会

1　はじめに

鳴門市教育委員会より、保護者の皆様をはじめとする市民の方々に、家庭や地域での子どもたちの学習や生活面の改善などについてご理解とご協力をいただくために、今年度の全国学力・学習状況調査結果の概要をご報告いたします。鳴門市教育大綱の基本理念「ともに学び 育ち合う 共育のまち鳴門」のもと、全ての児童生徒の学びに向かう力の育成と学力向上のために、学校教育においてはもちろん、家庭や地域とともに今後も取り組んでまいります。

なお、本調査は特定教科・内容及び特定学年の学力・学習状況調査であり、調査結果は本市児童生徒の学力全体を評価したものではありません。

2 全国学力・学習状況調査について

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日

令和８年４月２３日（木）※中学校英語・質問については別日に実施校あり

(3) 調査対象とする児童生徒・調査内容

小学校第６学年児童　１２校　３５５名　　国語、算数、児童質問調査
中学校第３学年生徒　　５校　３２１名　　国語、数学、英語、生徒質問調査

3　令和8年度調査の概観

今年度、小学校、中学校については、国語と算数・数学の平均正答率は全国・県を下回りました。また、英語のＩＲＴスコアは全国・県を下回りました。

平均正答率の分布に着目すると、小学校･中学校ともに、平均正答率が高い児童生徒の割合が全国・県よりも低く、平均正答率が低い児童生徒の割合が全国・県よりも高くなっており、それぞれの児童生徒の現状と課題を把握し、個に応じた取組を通して、学力の定着を図ることが重要です。

評価の観点から見ると、小学校では「知識及び技能」についてはある程度身に付けていますが、「思考力・判断力・表現力」を要する内容に課題が見られます。中学校では、「知識及び技能」、特に「思考力・判断力・表現力」を要する内容に課題が見られます。

また小中学校とも、記述式問題に対する無解答率が高く、課題であると考えられます。

質問調査、クロス集計から「学習習慣、学習環境等」「学習に対する興味・関心や授業の理解度等」「ＩＣＴを活用した学習状況」「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」に課題が見られました。児童生徒が、学習習慣を身に付け、落ち着いて学べる環境づくりに努めるとともに、学習に対して興味や関心を高め、主体的・対話的に学べる授業のあり方について、研究と改善を行うことが求められます。

また、学習習慣や生活習慣の確立のために、学力と関係が深いと考えられるやり抜く力、自制心や勤勉性といった非認知能力の育成を目指して、学校と家庭、地域社会が連携し取り組んでいくことが必要です。

4　平均正答率（教科に関する調査）

(1) 平均正答率

※　中学校英語は、ＩＲＴスコアの値

校種・教科 ＼ 平均正答率（%）	小学校		中学校		
	国　語	算　数	国　語	数　学	英　語
鳴門市	５９	５３	５７	５１	４７１
徳島県	６０	５４	６２	５６	４９７
全国	６０．９	５６．４	６３．９	５７	４９９

(2) 各教科における正答率が高い児童生徒、正答率が低い児童生徒の割合

児童生徒の割合 (%) ＼ 校種・教科		小学校		中学校		
		国　語	算　数	国　語	数　学	英　語
正答率高い*1	**鳴門市**	**30.9**	**32.3**	**33.5**	**25.2**	**547**
	徳島県	31.1	34.1	42.6	28.5	**573**
	全　国	34.2	39.5	45.0	29.1	**575**
正答率低い*2	**鳴門市**	**26.7**	**25.0**	**30.3**	**25.3**	**394**
	徳島県	23.9	24.0	23.1	21.6	**417**
	全　国	22.2	21.6	19.5	19.4	**422**

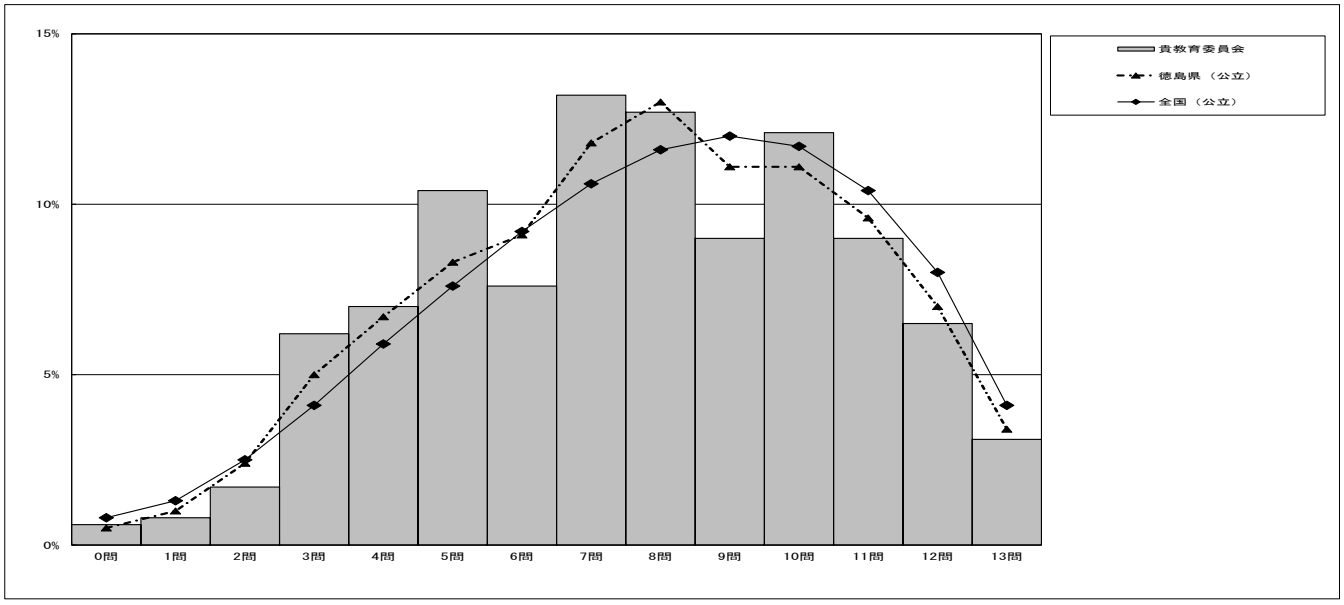
※中学校英語は、IRT スコアの値

*1 正答率高い　小学校 国語 10/13（約 77%）以上、算数 11/16（約 69%）以上
　　中学校 国語 11/15(約 73%)以上、数学 13/16（約 81%）以上、英語 25% 以上
*2 正答率低い　小学校 国語 5/13（約 38%）以下、算数 5/16（約 31%）以下
　　中学校 国語 6/15(約 40%)以下、数学 4/16（25%）以下、英語 25% 以下

5　教科に関する調査結果

(1) 小学校　国語

〈正答数分布グラフ〉(横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

小学校国語

問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	平均正答率(%) 鳴門市	県	全国
2　一	花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する（選択式）	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる	55.2	57.6	57.9
2　四	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く（記述式）	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	25.6	29.5	33.5
3　三（1）	【話し合いの様子の一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する（選択式）	目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	51.0	51.7	55.6

概要

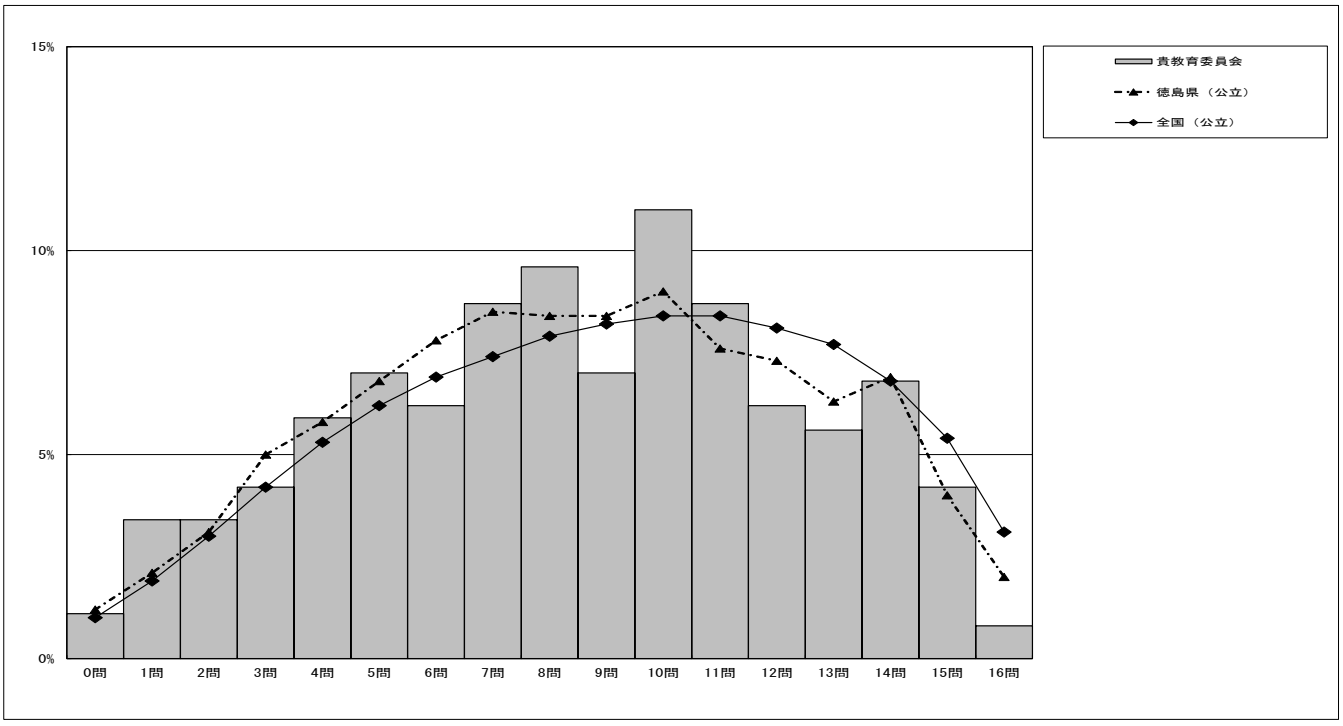
○漢字の習得には、改善が見られます。
○基礎的な知識・技能を問う問題については、正答率が高い傾向にあります。
○「すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」割合が、昨年度に続き全国を上回る結果となり、改善が見られます。
●評価の観点の「思考・判断・表現」は全国・県の正答率を下回っており、特に「書くこと」は課題が見られます。
●筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えるとともに、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。
●文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることに課題があります。

改善の方向

・国語科を中心に、すべての学習の中で、話す・聞く・書く活動を重視します。
・互いの考えを伝え合う活動、文章を読んだり書いたりする活動を、国語科はもとより全教科で、また授業外でも意図的に設定し、自分の考えや思いを表現したり、学んだことを振り返って今後に生かしたりできるようにしていきます。
・低学年から、「何を・どのように書くのか」「主語は何か」を意識して、文章を読んだり書いたりできるように、継続した指導をしていきます。
・資料の活用や文字数など、様々な条件に合わせて自分の考えを記述する機会や、資料から読み取ったことを、自分の言葉で説明したり記述したりする活動を大切にしていきます。
・モデルとなる文章を提示したり、児童同士で書いた文章を読み合い、確かめ合う場面を設定したりすることで、児童自身が書き表し方を工夫できるようにしていきます。
・内容の中心となる事柄や、全体を通しての構成を捉えることができるように、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめる活動を取り入れていきます。

(2) 小学校　算数

〈正答数分布グラフ〉(横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

小学校算数

問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	平均正答率(%) 鳴門市	県	全国
１（１）	一辺が８ｃｍの立方体の体積を求める式を書く（短答式）	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	63.1	67.5	72.7
１（２）	直方体の箱の形の六つの面のうち、四つの面が示されたとき、残りの二つの面の縦と横の長さを書く（短答式）	直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる	58.0	58.3	63.0
１（３）	１立方センチメートルの立方体を３６個使ってできた直方体の体積を書く（短答式）	体積の意味について理解しているかどうかをみる	29.0	32.2	40.1
２（４）	赤いテープの長さが、白いテープの長さの１．５倍になっている図を二つ選ぶ（選択式）	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	26.5	30.1	34.2

概要

○標準偏差を見ると、県と同率、国とも－０．１であり、大きな差は見られません。

●学習指導要領の領域「図形」「変化と関係」は、正答率が全国・県を下回り、課題が見られます。

●立方体や直方体の体積の計算、立体図形を構成する要素、体積の意味等の十分な理解に課題が見られます。

●割合における、基準量・比較量・割合の関係の十分な理解に課題が見られます。

●「数や言葉を使って書きましょう」という記述式の問題に対する正答率が低く、課題が見られます。

●「すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」割合が、全国を下回る結果となり、最後まで根気強く問題に取り組むことに課題が見られます。

改善の方向性

・図形学習では、観察や作図などの活動、実際に立体に触る、分解する、積み上げる等の算数的活動を伴った学習を大切にし、図形の性質や構成の仕方について筋道立てて考察し、説明する機会を設定する等、授業を工夫改善していきます。

・割合については、図や式等を用いて、基準量・比較量・割合の関係を読み取ったり、読み取ったことを、自分の言葉で説明したり記述したりする活動を大切にしていきます。

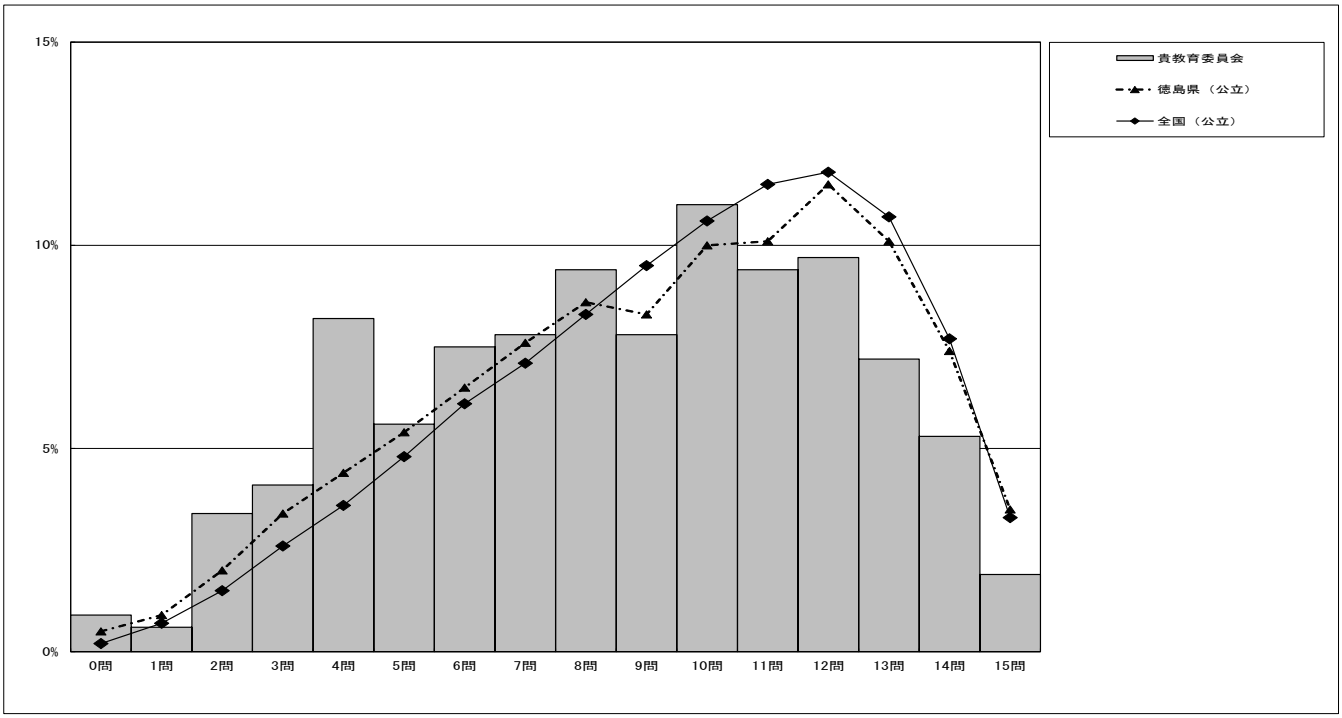
・数学的な思考を身に付けるため、児童自らがめあてを考えたり、活用する既習事項を選び出したりする授業を工夫していきます。

・引き続き、答えを出すだけに終わらず、わけや求め方を、図や式、言葉で記述したり説明したりする活動を大切にしていきます。

・授業では、一部の児童の発言にとどまらないように、根拠を明らかにするような問い返しや、別の児童に説明する機会を設け、主体的･対話的で深い学びとなる活動を取り入れます。

(3) 中学校　国語

〈正答数分布グラフ〉(横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

中学校国語

問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	平均正答率(%) 鳴門市	県	全国
2　三	話合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する　（選択式）	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	59.9	66.5	70.4
3　四	書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く　（記述式）	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる	34.2	40.9	45.0
4　四	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く　（記述式）	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる	29.5	36.8	38.9

概要

○文法事項（助動詞の意味理解や、ら抜き言葉の認識）についての基礎的な知識・技能は高く定着しています。

●学習指導要領の内容「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」では、いずれも正答率が全国・県を大きく下回っています。特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」は、全国・県との正答率の差が大きく、課題が見られます。

●評価の観点「思考・判断・表現」は、正答率が全国・県を下回り、課題が見られます。

●「記述式」問題は正答率が低いだけでなく、無解答率もかなり高く、課題が見られます。

●「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、互いの意見を整理して自分の考えをまとめることや、読み手からの助言を踏まえて文章の改善点を見いだすことに課題が見られます。

●話合いを通じて、他者の意見を尊重しながら自分の考えを整理・記述することに課題が見られます。

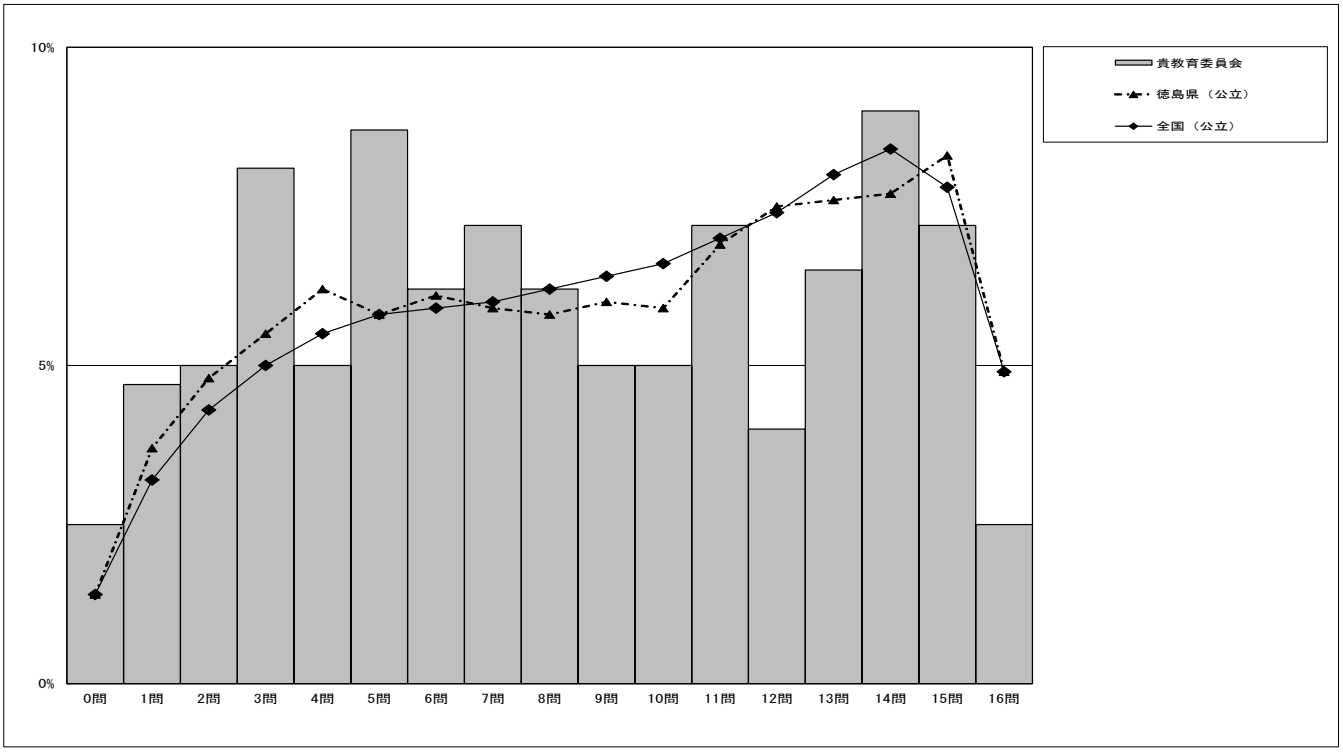
●「すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」割合が、全国を下回る結果となり、最後まで根気強く問題に取り組むことに課題が見られます。

改善の方向性

・話合いの場面において、他者の意見を尊重しつつ自分の考えを整理し、集約・記述させる言語活動を意識的に取り入れます。
・ペアやグループで話し合うことを通して、その展開や構成がどのような効果につながるのかを生徒自身が実感できるようにしていきます。
・記述式問題への抵抗感を減らすために、条件に沿って根拠や理由を書くショートワークや、白紙で提出しない指導を継続して行います。
・「書くこと」の学習指導の際には、モデル文の提示、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、伝えたいことが伝わるように文章を整えることができるように指導していきます。
・言葉の意味を正確に捉える力を養うために、文章中の該当箇所や類義表現を着実に探し出す指導を展開します。
・行事後に書いた作文など、これまでに書いた文章を推敲する仕方を伝えていきます。観点を明確にして文章を整えたり、具体的な相手を想定して読み返し、伝えようとすることが伝わるかどうかを確かめたり、友達と読み合ったりする学習活動を取り入れていきます。
・互いの考えを伝え合う活動、文章を読んだり書いたりする活動を、国語科はもとより全教科で、また授業外でも意図的に設定し、自分の考えや思いを表現したり、学んだことを振り返って今後に生かしたりできるようにしていきます。

(4) 中学校　数学

〈正答数分布グラフ〉(横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

中学校数学

問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	平均正答率(%) 鳴門市	県	全国
6（3）	手順にしたがってできたＡとＢについて、Ａ－Ｂの値がどんな数になるかを、選んだ２数の差に着目して説明する（記述式）	統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	36.4	43.6	44.6
7（2）	データ量が１０００ＭＢになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する（記述式）	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	24.9	30.4	33.9
8（2）	図１において、ＡＢ＝ＡＰ、ＯＢ＝ＯＰならば∠ＡＯＢ＝∠ＡＯＰであることを、三角形の合同を基にして証明する（記述式）	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	35.2	42.5	46.1
9（2）	学年別の睡眠時間について、学年別睡眠時間の箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ（選択式）	箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる	26.2	29.8	31.9

概要

○「数と式」領域を中心とした基礎的な概念理解や、正・負の数、同類項の計算は、ある程度できています。

○選択式や短答式の問題において、解答の方針を把握したり必要な情報を読み取ったりすることは、できています。

●学習指導要領の領域「数と式」「図形」「関数」「データの活用」では、いずれも正答率が全国・県を下回っています。特に、「図形」「データの活用」は、全国・県との正答率の差が大きくなっています。

●評価の観点の「知識・技能」「思考・判断・表現」、どちらにも課題が見られますが、全国・県と比較して、特に正答率が大きく下回っているのは、「思考・判断・表現」です。

●「記述式」問題は正答率が低いだけでなく、無解答率もかなり高くなっています。

●「データの活用」において、度数分布多角形や箱ひげ図等のデータの傾向を比較・分析し、判断の理由を数学的に説明することに課題が見られます。

●「図形」において、条件から仮定を見いだしたり、合同な図形の性質を基に筋道を立てて証明したりすることに課題が見られます。

●「関数」をはじめとする日常の具体的な事象において、表やグラフから情報を読み取り、問題解決の方法を数学的に表現・説明することに課題が見られます。

改善の方向性

・AI ドリルを積極的に活用し、個別最適な学びの場を増やすことにより、定着に個人差がある領域の基礎的な知識・技能を確実に身に付けていきます。

・定着している基礎的な計算力や知識をベースに、「なぜそうなるのか」を考えさせる発展的な課題へつなげる授業展開を工夫します。

・記述式問題における無解答を減らすため、まずは思考の方針や必要な条件を整理させ、考えの過程や根拠の一部だけでも粘り強く記述するよう指導を徹底します。

・数学と日常生活が関係している題材（データの活用や関数の変化）を各単元で積極的に取り扱い、数学が日常生活の問題を解決するための有効な手段であると認識させます。

・１人１台端末を有効活用して、データをヒストグラムや箱ひげ図に素早く整理・作成し、データの傾向を比較して根拠のある主張や説明を作る場面を授業の中に設定します。

・数量関係を文字式で表したり、式の展開・変形から事象の性質や理由を説明したりする活動を計画的に取り入れ、数学的な表現力を高めて行きます。

・問題解決の方法や手順を説明する場面を意図的に設定し、生徒同士で考え方をアウトプットしたり、よりよい説明に練り上げたりする言語活動を推進します。

(5) 中学校　英語

〈課題が見られた問題〉

中学校英語

問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	平均正答率(%) 鳴門市	県	全国
１０（２）	インターネットの使用に関して読んだことのついて、考えとその理由を書く（記述式）	社会的な話題について、短い文を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	18.8	26.4	27.8
１３	留学生との交流会で一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を書く。（記述式）	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	33.3	48.5	44.0
１４	学校で普段行うことを１つ取り上げ、それについて説明を書く。（記述式）	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	22.8	28.4	27.8

概要

○学習指導要領の領域「聞くこと」「読むこと」については、無解答率が全国と同等か低くなっていることから、問題に取り組む姿勢はできています。

●学習指導要領の領域「書くこと」の「記述式」になると無解答率が上がり、１３・１４の正答率が低かったことから、まとまりのある文章を書くことに苦手意識をもつ生徒が多いと考えられます。

●１０（２）が、本文の表現を使ってもよいにも関わらず、正答率がひときわ低かったことから、話題が身近なものから社会的な話題になると、要点を捉えることが困難になると考えられます。

改善の方向性

・母国語でできないことを第二言語で行うことは困難なので、自分の考えや気持ちなどを、まず日本語で書いたり話したりして伝え合う機会を増やし、そこから段階的に英語にしていくという言語活動を行います。

・自分の言いたいことを、直訳しようとすると高度な単語力を求められるので、自分の意図を曲げずに知っている単語で自分の意見を表現する力を養う活動を取り入ます。

・社会的な話題に興味関心をもち、それに対して、ＹＥＳ・ＮＯのような単純な回答ではなく、理由や意見を文章で述べられる「文発話」を増やす言語活動を継続的に取り入れます。

6　児童生徒質問による調査結果

（1）肯定的な回答の割合が、全国を上回っている項目より

小学校

番号	質問項目【　】カテゴリーは、「Ｒ８年度全国学力・学習状況調査報告書」（文部科学省国立教育政策研究所）参考	鳴門市（%）	国（%）	市－国（%）
15	学校に行くのは楽しいと思いますか 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】	90.2	85.7	4.5
16	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】	80.4	77.9	2.5
27	昼休みや放課後に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室（電子図書館を含む）にどれくらい行きますか 「だいたい週に４回以上行く」「週に１～３回程度行く」「月に１～３回程度行く]と回答 【学習習慣、学習環境等】	48.1	34.9	13.2
45	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】	93.8	87.3	6.5
63	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数)】	94.4	91.0	3.4
70	英語の勉強は好きですか 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語)】	71.3	66.7	4.6

中学校

番号	質問項目【　】カテゴリーは、「Ｒ８年度全国学力・学習状況調査報告書」（文部科学省国立教育政策研究所）参考	鳴門市（%）	国（%）	市－国（%）
6	学校の勉強のことについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか　「ほぼ毎日」「週に１～２回」と回答 【基本的生活習慣等】	75.9	72.2	3.7
7	学校の悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか「ほぼ毎日」「週に１～２回」と回答 【基本的生活習慣等】	40.3	36.4	3.9
10	将来の夢や目標を持っていますか 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】	70.6	67.6	3.0
13	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】	75.9	71.9	4.0
16	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】	81.7	78.6	3.1
64	１、２年生のときに受けた授業では、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（数学)】	68.8	63.0	5.8

（２）回答率が全国を下回り、課題と考えられる項目より

小学校

番号	質問項目【　】カテゴリーは、「Ｒ８年度全国学力・学習状況調査報告書」（文部科学省国立教育政策研究所）参考	鳴門市(%)	国(%)	市－国(%)
35	５年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか　「ほぼ毎日（１日に複数の授業で活用)」「ほぼ毎日（１日に１回くらいの授業で活用)」「週３回以上」と回答 【ICT を活用した学習状況】	37.3	68.8	-31.5
36-3	あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか 【ICT を活用した学習状況】	62.1	69.5	-7.4
36-4	あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか 【ICT を活用した学習状況】	65.9	74.6	-8.7
38	５年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか　「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と回答 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】	57.6	66.4	-8.8
48	総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか 【総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳】	64.9	79.7	-14.8
52	国語の勉強は得意ですか 【学習に関する興味・関心や授業の理解度等（国語)】取組状況】	52.8	60.4	-7.6

中学校

番号	質問項目【　】カテゴリーは、「Ｒ８年度全国学力・学習状況調査報告書」（文部科学省国立教育政策研究所）参考	鳴門市(%)	国(%)	市－国(%)
35	１、２年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか　「ほぼ毎日（ １日に複数の授業で活用)」「ほぼ毎日（１日に１回くらいの授業で活用)」「週３回以上」と回答 【ICT を活用した学習状況】	30.9	78.2	-47.3
36-4	あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか 【ICT を活用した学習状況】	67.5	80.0	-12.5
38	１、２年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】	51.4	65.5	-14.1
48	総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか 【総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳】	65.3	81.7	-16.4
76	家庭学習の課題（宿題）として、どの程度、PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか「ほぼ毎日」「週３回以上」「週１回程度」と回答 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語)】	14.2	24.5	-10.3
80	１、２年生のときに受けた授業では、キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書く活動をどれくらい行いましたか　「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語)】	40.0	61.3	-21.3

7　クロス集計の結果より

質問調査と平均正答率とのクロス集計では、選択肢ごとの平均正答率を比較していますが、調査数が多くないため、ごく少数の回答結果の影響を受けることもあります。このことをふまえた上で、傾向と改善の方向性を★に示しました。

網かけ部分は、各教科の平均正答率が最も高いことを表しています。

小学校

(8)	自分には、よいところがあると思いますか　【挑戦心、達成感、規範意識、事故有用感、幸福感等】				
選択肢		児童数（人）	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(13問)	算数(16問)
1	当てはまる	138	39.5	62.4	56.4
2	どちらかといえば、当てはまる	147	42.1	57.0	52.7
3	どちらかといえば、当てはまらない	46	13.2	59.5	51.9
4	当てはまらない	18	5.2	44.0	34.0

★自分には、よいところがあると感じている児童は、正答率が高くなっています。日々の自分の成長や変化に気づき、自尊感情を高める授業の展開に努めます。

(23)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）　【学習習慣、学習環境等】				
選択肢		児童数（人）	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(13問)	算数(16問)
1	３時間以上	11	3.2	69.9	66.5
2	２時間以上、３時間より少ない	41	11.7	60.4	57.5
3	１時間以上、２時間より少ない	103	29.5	64.7	57.3
4	３０分以上、１時間より少ない	110	31.5	55.5	53.0
5	３０分より少ない	62	17.8	55.8	45.7
6	全くしない	22	6.3	47.2	39.8

★家庭等（学校外）での学習に取り組む時間が長い児童は、正答率が高くなっています。学年の発達段階に応じた宿題の質や量について、「家庭学習の手引き」等で各家庭に周知し、連携した取組を進めます。また、タブレットの持ち帰りも積極的に行います。

(25)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）　【学習習慣、学習環境等】				
選択肢		児童数（人）	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(13問)	算数(16問)
1	４時間以上	7	2.0	78.0	83.9
2	３時間以上、４時間より少ない	14	4.0	71.4	67.9
3	２時間以上、３時間より少ない	21	6.0	61.5	51.5
4	１時間以上、２時間より少ない	78	22.3	60.9	56.3
5	１時間より少ない	112	32.1	56.4	49.4
6	全くしない	55	15.8	52.6	47.0

★休みの日に、学習に取り組む時間が長い児童は、正答率が高くなっています。学年の発達段階に応じた宿題の質や量について、「家庭学習の手引き」等で各家庭に周知し、連携した取組を進めます。また、タブレットの持ち帰りも積極的に行います。

(26)	学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）　【学習習慣、学習環境等】				
選択肢		児童数（人）	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(13問)	算数(16問)
1	２時間以上	16	4.6	69.7	66.4
2	１時間以上、２時間より少ない	27	7.7	68.1	60.2
3	３０分以上、１時間より少ない	42	12.0	59.5	55.4
4	１０分以上、３０分より少ない	56	16.0	60.7	58.8
5	１０分より少ない	57	16.3	49.3	43.4
6	全くしない	92	26.4	57.2	49.6

★読書が好きな児童は、正答率が高くなっています。ただ、読書好きの児童の割合は年々減少傾向にあります。家庭や関係者とも連携し、読書の楽しさや意義を、実感できるような活動を工夫していきます。

(38)	５年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか　【主体的･対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】				
選択肢		児童数（人）	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(13問)	算数(16問)
1	発表していた	66	18.9	64.0	62.3
2	どちらかといえば、発表していた	136	39.0	60.6	51.7
3	どちらかといえば、発表していなかった	88	25.2	57.6	53.9
4	発表していなかった	48	13.8	51.3	45.8
5	考えを発表する機会はなかった	7	2.0	41.8	34.8

★資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している児童は、正答率が高くなっています。情報を整理し、話の組み立てを考えるために、あらゆる場面で書く活動や説明したりする場面を数多く設定していきます。

(72)	これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビや動画、ホームページを見る、PC・タブレットなどの ICT 機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）　【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）】				
選択肢		児童数（人）	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(13問)	算数(16問)
1	当てはまる	75	21.5	66.8	62.4
2	どちらかといえば、当てはまる	66	18.9	54.2	46.3
3	どちらかといえば、当てはまらない	86	24.6	56.8	51.4
4	当てはまらない	117	33.5	57.7	52.2

★授業以外の場で、英語を使う機会が多い児童は、正答率が高くなっています。学校外で英語を使う機会等を周知するとともに、自ら進んで会話をしようとする意欲をより高めことができるよう、授業における ALT との交流の充実をさらに図ります。

中学校

(1)	朝食を毎日食べていますか。					【基本的生活習慣等】
選択肢		生徒数（人）	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		平均 IRT スコア
				国語(15 問)	数学(16 問)	英語
1	している	233	72.4	59.6	55.6	482
2	どちらかといえば、している	46	14.3	53.5	43.5	453
3	あまりしていない	23	7.1	47.0	39.0	403
4	全くしていない	17	5.3	52.1	47.7	462

★朝食を毎日食べている生徒は、正答率が高くなっています。早寝・早起き・朝ご飯の重要性を生徒はもとより家庭へも伝え、学校と家庭が一体となって基本的生活習慣の定着に努めます。

(9)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか					
	【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】					
選択肢		生徒数（人）	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		平均 IRT スコア
				国語(15 問)	数学(16 問)	英語
1	当てはまる	156	48.4	60.4	56.6	480
2	どちらかといえば、当てはまる	137	42.5	56.7	50.7	471
3	どちらかといえば、当てはまらない	19	5.9	48.2	42.6	444
4	当てはまらない	9	2.8	28.9	12.5	339

★教職員に、自分のよさを認められていると感じる生徒は、正答率が高くなっています。生徒のよさをしっかりと認めた学級経営、生徒指導等ができるよう、研修の充実を図り、積極的に取り組みます。

(22)	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか					【学習習慣、学習環境等】
選択肢		生徒数（人）	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		平均 IRT スコア
				国語(15 問)	数学(16 問)	英語
1	できている	84	26.1	63.0	60.3	486
2	どちらかといえば、できている	160	49.7	57.9	52.5	478
3	どちらかといえば、できていない	60	18.6	53.1	44.2	448
4	できていない	13	4.0	40.0	29.8	385

★自ら考え、主体的に取り組むことができる生徒は、正答率が高くなっています。分からないことや詳しく知りたい時の学び方を教えるとともに、解決時の充実感や成功体験を重ねられるような授業を工夫していきます。

(23)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）					【学習習慣、学習環境等】
選択肢		生徒数（人）	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		平均 IRT スコア
				国語(15 問)	数学(16 問)	英語
1	３時間以上	20	6.2	65.6	67.1	560
2	２時間以上、３時間より少ない	50	15.5	58.0	55.7	482
3	１時間以上、２時間より少ない	115	35.7	58.0	53.9	471
4	３０分以上、１時間より少ない	78	24.2	55.0	48.7	452
5	３０分より少ない	33	10.2	56.0	48.4	445
6	全くしない	25	7.8	55.6	40.4	463

★家庭等（学校外）での学習に取り組む時間が長い生徒は、正答率が高くなっています。学年の発達段階に応じた宿題の質や量について、生徒、家庭に周知し、連携した取組を進めます。また、タブレットの持ち帰りも積極的に行います。

(36-4)	あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか 【ICT を活用した学習状況】					
選択肢		生徒数（人）	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		平均 IRT スコア
				国語(15 問)	数学(16 問)	英語
1	そう思う	111	34.5	62.3	59.2	497
2	どちらかといえば、そう思う	107	33.2	62.5	58.3	495
3	どちらかといえば、そう思わない	58	18.0	50.2	42.7	430
4	そう思わない	28	8.7	41.0	32.2	383

★ ICT 機器を使ってプレゼンテーションを作成できると感じている生徒は、正答率が高くなっています。授業等で ICT 機器を利用し、プレゼンテーションを作成する機会を意図的・計画的に取り入れ、活用の充実を図ります。

(39)	１、２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか 【主体的･対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】					
選択肢		生徒数（人）	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		平均 IRT スコア
				国語(15 問)	数学(16 問)	英語
1	当てはまる	73	22.7	67.1	66.5	514
2	どちらかといえば、当てはまる	165	51.2	58.5	53.1	469
3	どちらかといえば、当てはまらない	70	21.7	48.8	39.1	438
4	当てはまらない	9	2.8	37.5	26.6	404

★課題解決に向けて主体的に取り組むことができる生徒は、正答率が高くなっています。課題解決に向けた具体的な方法を教え、解決時の充実感や成功体験を重ねられるような授業を工夫していきます。

(44)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか 【主体的･対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】					
選択肢		生徒数（人）	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		平均 IRT スコア
				国語(15 問)	数学(16 問)	英語
1	当てはまる	86	26.7	62.6	61.6	490
2	どちらかといえば、当てはまる	168	52.2	57.1	51.2	473
3	どちらかといえば、当てはまらない	49	15.2	54.4	45.6	448
4	当てはまらない	15	4.7	42.2	34.2	405

★授業での学びを実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしている生徒は、正答率が高くなっています。授業での学びが、日常生活の問題を解決するための有効な手段であると認識できるよう、日常生活が関係する題材を各単元で積極的に取り扱います。

(65)	１、２年生のときに受けた授業では、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えましたか 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】					
選択肢		生徒数（人）	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		平均 IRT スコア
				国語(15 問)	数学(16 問)	英語
1	当てはまる	107	33.2	63.8	63.7	497
2	どちらかといえば、当てはまる	140	43.5	58.9	52.3	469
3	どちらかといえば、当てはまらない	57	17.7	49.5	38.8	444
4	当てはまらない	16	5.0	35.4	26.6	410

★問題の解き方が分からない時に、あきらめずにいろいろな方法を考えた生徒は、正答率が高くなっています。無解答を減らすため、思考の方針や必要な条件を整理させ、考えの過程や根拠の一部だけでも粘り強く記述するよう指導を徹底します。

8　今後の取組方針

学校と市教育委員会では次のことを積極的に推進します。

○昨年度に引き続き、「やり抜く力」「書く力」の育成を、本市共通テーマとします。中学校においては、この２点に加え「読む力」の育成にも意識して取り組みます。各校の実態に即した具体的方策を「学力向上≪焦点化シート≫なると版」に記載するとともに、組織的・継続的に取り組みます。
○本調査の調査結果を各校において分析する中で、児童生徒のつまずきがどこにあるのかを把握します。各校で、課題を各教科等の年間指導計画にも反映させ、系統性を持たせて継続的に取り組んでいけるよう、カリキュラムマネジメントを推進します。
○「なるとうずっ子学力向上パッケージ事業」において、本市独自の特色ある教育を実施し、児童生徒の学びに向かう力や学力を育み、一人一人の無限の可能性を伸ばします。
○児童生徒の学力向上につながる学習支援・生活支援の具体的な方法について、学力向上推進委員会、校内学力向上推進員情報交換会、市教委指導主事会で検討・共有し、市全体で取り組んでいきます。
○児童生徒の「知識・技能」の定着、「思考力・判断力・表現力」の向上に向けて、「学級経営の充実」に努めるとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組みます。
○学年の発達段階に応じて、タブレットなどのICT機器を日常的に活用する機会を増やし、これからの時代に必要な情報活用能力を育むための授業を展開します。
○児童生徒の課題をふまえ、若手教職員をはじめとする全教職員の研修内容の充実を図ります。
○目標をもち、あきらめずに努力できる児童生徒を育成するためにキャリア教育をはじめ、学校の教育活動全体の中で、やり抜く力や自制心など、非認知能力の育成を図ります。
○就学前教育・保育施設、小・中学校における連携を深め、「学びの連続性」をめざしてともに取り組んでいきます
○家庭との連携のもと、学力向上の礎となる基本的生活習慣・学習習慣の確立を図ります。

家庭や地域では次のような取組の推進をお願いします。

○「早寝・早起き・朝ご飯」等の基本的生活習慣の定着を図りましょう。
○時間の使い方について、お子さんとよく話し合い、スマートフォンやゲームの使用時間、学習や読書、運動時間を決定し、望ましい学習習慣、生活習慣の定着を図りましょう。
○地域行事やボランティア活動への参加を促しましょう。
○地域や社会のニュースについて話す機会を増やしましょう。
○夢や目標について話し合い、物事をあきらめず、根気よく最後まで取り組むことができるような言葉かけをしましょう。
○お子さんとの会話を大切にしましょう。学校での出来事や友達のこと、興味をもっていることなどを語り合い、学校や家庭での生活状況の把握に努めましょう。
○学校行事等に積極的に参加するなど、学校との連携を図りましょう。